

図書館だより



6月 3号

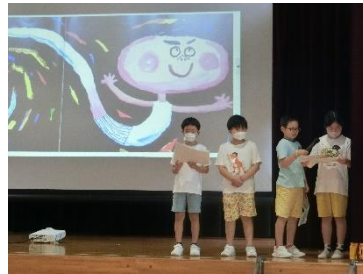
令和5年6月21日(水)
第一日暮里小学校
校長 猪瀬 賢一
学校図書館プロジェクト



どくしよじゆんかん
読書旬間です~図書集会 ブックデリバリー おやこ どくしよ
親子で読書~

6月19日から2週間は、一日小読書旬間になります。学校では「ブックデリバリー」、家庭では「親子で読書」の取り組みをします。自分で選ぶ読書ではなかなか出合えない本と出合えるチャンスでもある取り組みです。5月から毎月、読書を頑張っている人の名前をブックランドに掲示します。今年度もたくさん本を読みましょう!

★6月16日には図書委員会児童による「図書集会」がありました。図書館の使い方やマナーについての〇×クイズを通して、改めて図書館の使い方を学ぶことができました。また、絵本の読み聞かせもしてくれました。読書旬間に合わせたイベントにも積極的に参加しましょう。



★「ブックデリバリー」では、各教室に担任の先生ではない先生がみなさんの教室に、「読み聞かせ」をお届けします。聞き終わったあとに「その本もって読みたい!」と思える新たな本に出合えるといいですね。

★「親子で読書」とは、おうちの人と読書の時間を1日20分程度、3日間一緒に楽しむというものです。「読書を愛するまち・あらかわ」では、「うち読」にも力を入れています。



① おうちの人と一緒に同じ本を読む

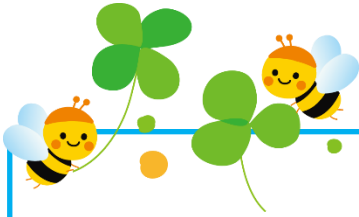
② おうちの人と同じ時間に、それぞれ違う本を読む

③ 大人が子供に読み聞かせをする

④ 子供が大人に読み聞かせをする

※取り組みんだら、カードに感想を書いて、担任の先生に出してください。





かだいとしよ 課題図書って なに？



どくしよかんそうぶん
読書感想文コンクールの主催者が指定した本です。
ほん せんもんか せんせいがた あたらしゅっぱん ほん なか えら
本の専門家の先生方が、新しく出版された本の中から選びました。
ねんれい あ おお かんどう あら ちしき え ほん
年齢に合わせて、多くの感動や新たな知識を得られたりする本を、
フィクション、ノンフィクション、外国作品などから選んだものです。

ていがくねん 1、2年生 ねんせい



* 『それで、いい!』 磯みゆき/作 はたこうしろう/絵 ポプラ社

きつねは えをかくのが だいすきです。てんらんかいにむけて すごいえ
をかこうと「すごいもの」を さがしまわります。だけど なんまいかいて
も まんぞくできません。かけばかくほど たのしくなくなってきて…。さて、
きつねは どんなえを てんらんかいに だしたのでしょうか。



* 『よるのあいだに…みんなをささえるはたらく人たち』 ひと

ポリ・フェバー/文 ハリエット・ホブデイ/絵 中井はるの/訳 BL出版

わたしたちが ねている よるのあいだも、まちでは たくさんのひとが
はたらいています。ビルの そうじをするひと、みまもりをするひと、けい
さつかん…。わたしたちの せいかつを ささえてくれている ひとたちに
「ありがとう」をつたえたい ほんです。



* 『けんかのたね』 ラッセル・ホバン/作 小宮由/訳 大野八生/絵 岩波書店

あるひ、おとうさんが つかれてかえってくると、かぞくのみんなが おおげ
んか。ひとりずつ けんかのりゆうを きいていくと、さいしょのげんいんは
ねずみだと わかります。ねずみが ねこのプッスに いったことばから おは
なしは どんどんもどって行って…。みんなは なかなかおりできるので
しょうか。



* 『うまれてくるよ海のなか』 うみ 高久至/写真 かんちくたかこ/文 アリス館

うみのなかは きけんがいっぱい。おとうさんも おかあさんも、うまれ
たばかりのたまごを いろいろな さくせんで まもります。かぞえきれな
いほどの たまごのうち、おとなになるのは ほんのすこし。あかちゃんた
ちに 「がんばれー」と おうえんしたくなる しゃしんえほんです。





*『ライスボールとみそ蔵と』 横田明子/作 塚越文雄/絵 絵本塾出版

古くさいみそ蔵のある自分の家がきらいだったジュンですが、帰国子女のユキちゃんの
おかげでみそのよさに気づいていきます。ロンドンからユキちゃんの友だちが日本に
くることになり、みんなでみそ蔵でもてなすことになります。みその歴史、作り方、現在のみ
その状況などもよくわかります。また本を読んだ後、書名の意味に納得できそうです。



*『フードバンクどろぼうをつかまえろ! 秘密の大作戦!』

ワヅヤリ Q.ラフ/著 千葉茂樹/訳 スギヤマカヨ/絵 あすなろ書房



フードバンクは満足に食事ができない家庭に食品を分けてきました。ところが最近、
その食品がへってきたと聞き、いつもお世話になっているネルソンは友だちと子ども
探偵となって極秘で調査します。フードバンクのカートから食品を盗もうとする犯人
を見つけ、子ども探偵たちが追うのですが…。この物語の舞台となっているイギリス
のフードバンク事情を知るとともに、日本の取り組みにも目を向けてみませんか。

*『化石のよぶ声がきこえる 天才恐竜ハンター ウェンディ・スロバーダー』

レイン・ベッカー/作 サンドラ・デュメイ/絵 木村由莉/訳・監修 くもん出版

ウェンディはほかのみんなが気づかないすてきなものを見つける天才です。ある日
ウェンディが見つけた恐竜のたまごの化石は、恐竜の歴史を知る手がかりとなり、
ウェンディの人生を大きく変えることとなります。恐竜ハンターとなったウェンディは
行く先々で化石を見つけ、そしてとうとう大発見をします。恐竜ハンターのウェン
ディを描いた伝記絵本です。巻末の「好き!を仕事にするってどういうこと?」と題した
日本の古生物学者のスペシャル対談からも生き方を学ぶことができます。



*『給食室のいちにち』 大塚菜生/文 イヤマズサ/絵 少年写真新聞社



みなさんが毎日食べている給食は多くの人の手によって細かいところまで
衛生管理され、安全においしく作られています。万が一食中毒などが起きた
ときに調べるため、作る前の食材とできあがった料理をそれぞれ50グラムずつ
2週間保存したり、調理後は調理台だけでなく床まできれいにしたり…。また
栄養士さんは季節に合わせて、地元でとれた材料を取り入れた栄養たっぷりな
献立を作ってくれます。ますます毎日の給食が楽しみになる絵本です。

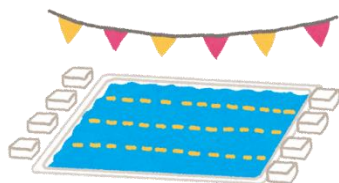


***『ふたりのえびす』** 高森美由紀/作 フレーベル館

お調子者キャラを演じる太一と、転校早々に「王子」と呼ばれて女子たちに人気の優希が、青森県八戸市の郷土芸能「えんぶり」のえびす舞を踊ることになりました。自分のイメージするキャラにしがみつくと、周りの勝手なイメージをきゅうくつに感じている優希が舞の練習をする中でお互いの気持ちをぶつけ合います。家では素の自分を出して何事にも「ムカつく」と言う太一に語るお父さんの言葉や、指導してくれる親方と親友との果たせなかった約束など、大人たちの思いを知り成長する二人の舞は成功するのでしょうか。



***『5番レーン』** ウツ・ホル/作 ノ・インギョン/絵 すんみ/訳 鈴木出版



小学校6年生のカン・ナルは水泳部のエースです。でも最近では他校のライバル、キム・チョヒに勝てず悩んでいました。大会の録画を見てライバルの不正を疑いだしたカン・ナルは、ある事件を起こしてしまいます。どうにもならない悔しさや逃げたい気持ちと向き合うカン・ナルの心の成長が描かれています。書名の『5番レーン』は作者から皆さんへのメッセージといえるでしょう。

***『魔女だったかもしれないわたし』** エル・マクニコル/著 櫛田理絵/訳 PHP 研究所

アディは自閉的な症状を持つ11歳の女の子。スコットランドのジェニパーという小さな村に、同じく自閉的な姉キーディやキーディと双子ですが「定型発達」のニナ、そして両親とくらしています。アディは村の歴史の授業で、かつて魔女として処刑された女性たちがいることを知り、自分のように少し周りとは違うだけで不当に殺されてしまった人たちがいたのではないかと考え、慰霊碑を作ることを提案するのですが…。アディを取り巻くさまざまな人たちとの関わり方から多様性について考えさせられるお話です。



***『中村哲物語 大地をうるおし平和につくした医師』** 松島恵利子/著 汐文社



中村哲先生はいつものように作業現場に向かう途中で命を奪われました。哲先生はお医者さんですが、アフガニスタンで自ら井戸を掘り、水路を作って多くの人に水を届けていました。アフガニスタンでは干ばつや戦争や紛争が続き、明日の命さえもおびやかされる状態が続いていたのです。日本で生まれた哲先生がどうしてアフガニスタンで水路を作るようになったのか。命を守るために力を尽くした哲先生の生き方から、本当に大切なことは何なのか考えさせられます。